

「CASH」の話

あなたは、他人を信頼できる人ですか？

このように問いかれたら、多くの人が自信はないかもしれないが「はい」と答えるのではない。しかし、実際は「いいえ」だろう。そのことを社会システムが雄弁に物語っている。

社会は、人を信用しないことを前提にできている。

例えば、電車。あなたは、改札にSuicaを当てて、通り抜ける。もしも、鉄道会社が乗客を本当に信頼しているなら、カバンやポケットの中にあるSuicaから自動的に運賃が引き落とされる形にして、改札をなくしてしまってもいい。そうすれば、圧倒的に駅の管理コストはさがる。しかし、それだとキセルしようと思った人を防ぐことはできない。僕たちは、キセルするかもしれない人のために、Suicaをかざすという行為と管理コストを代償に差し出している。

同じように、貸金の場合も、与信調査にすごく費用をかけている。借金を返さない人のためのコストを、返す人が利子で負担しているのだ。

人を信用しないが故に、非常に多くのコストを社会は払っている。

文 佐渡島庸平

text by Yohsei Sadoshima

前回紹介したアプリ「CASH」は、不正をする人はほとんどいないという前提で、仕組みを作っている。結果は、どうだったのか？不正をする人がほとんどいなくて、与信のためのコストなどが不要だったことが判明した。

インターネットによって何が変わるのか？

多くの人は、技術的な変化ばかりに目を向ける。しかし、本当の変化は、人の意識すらも変えてしまうことだ。今までの社会は、人を信用しないことを前提としていた。しかし、これからは人を信用したうえで作られる仕組みが中心になっていくのだ。

それがどのような社会なのか。まだ変化が始まったばかりで想像するのが難しい。アプリ「CASH」は、ただの質屋アプリのようにも見えるが、実は未来の息吹も含んでいるのだ。



Profile

株式会社コルク 代表取締役
2002年講談社入社。週刊モーニング編集部にて、「ドラゴン桜」(三田紀房)、「働きマン」(安野モヨコ)、「宇宙兄弟」(小山宙哉)などの編集を担当する。2012年講談社退社後、クリエイターのエージェント会社、コルクを創業。著名作家陣とエージェント契約を結び、作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形の前にあるインターネット時代のエンターテインメントのモデル構築を目指している。